歳旦

加小塚

中村俊定文庫
文庫 18
951

中村俊定文庫

未詳

試毫

ちりぬ利髪の
毛をこそ思へ

北海坊
佛仙

七ばかりの
女、髪すきてゐる
舞雲

歳旦

北極舟

翁玉北

祝司北

日農はしえ

聖節　　花仙

四方拝

人農始の

元旦の時

大ぬくやかな菜巾付　梅下

春歩

元旦

狂題八景

瀬田初日影　　唐蓮社月次連中

湖のかなめや格の　初日　影　　秋露

格析もかゝぬ弗代や初日影　　知耕

比良裏白

金山やゝ朔うゝ雲の出光　　幾士

雲白や巨燈くゝ雪一雪　　岩多

唐崎若水

あら玉の年の明ぬ春はなを　千原

ひかりやあらん西陣の井に　あら玉の　北水

矢橋室船

京山をあれみちのくの奥の　芋子

広くゝ行帆の影やたゝ永　年二

堅田初鳶

湖面に響く人や初うたゝ　待宵

月の影くもりにけり鳶の影　頃亭

栗津餅松

上下は松風やかすみ出　以石

手礼も里ゝ一竹やうゑる松　琴駐

三井雑煮鍋

芝垣の花の色うつる雑煮鍋　素竹

新年清雪けとまゝ　守睦

石山鏡餅

祝年の宝ゝ鏡や海　多夕

一ゝ皆共掌に初の海　舎来

鶏旦

三ツ物

櫻白舎
東朔

えりやの野菜ふりまぶかく
田舎の長もくるくるく　正以
三つ四つとまるとまるもちの蛸ちく　花石

其二

今

えりやの毛の長もかしらかたまる
当代八幡宮長寿
出さくさく踊ふかけるもの　東朔
正以

其三

えりや帝の若菜　所し　正以
福菓　踊る代の吉兆　花石
むえ打ちハ初勢の兎を　東朔

歳旦

松平の二月ちらやかしら傳　菓上
あけらのやぶ植も亜よかち竹　車卜
書　初や　物の唄ほき文てうち　凡静

我とうとうとうとしかうはたち　行年七十五　和夕

砂和を試く

松ちれ竹やそ雪の砂和　砂一

改旦

よよ一の
ちはを迎えて

あらたやそ光の名残ゆくりの月　河南運中　寄生

名ゐ水を彩き

ひらけやまさかの雲き湖の蓋　田鼠

あらたやそ雪のの空仮より社川　舎我

ひらけやかさちを立ぬ滝　文路

名水や社長鶴のあ一つ　百史

人日

新清い雪のちちやふつて　女　いそ

詠ちちを長つつみ指、　光之

春興

ちちやそちふかるれ　舎我

名小逝ぬ終るの夕雪　京生

ふせる此夜変りてこそ　田鼠

振袖の先へ出る氣　文路

筆の丸ふ代くゝ面の月　百史

流石京し芋小万雲　ひ光

手尾

風見雪人の
一樹の梅小
出ロ乃粧をも
思ひ〳〵の
余波を　ゆき

居殘

さゝ〳〵の帰小一束　殘くゝん　田鼠

身結

妻小来ふ化粧のうゝ　梅義　白雨

高尺

魚たべあの松蔭し居てり　文路

早駕

押さく押さくのたけ踏まく　冬史

口文

ゆしゆ佳さやかくの名うた　高生

人日

七くさの七くさの姉　妹　多夕

解るる川さるつま　子伊

妹の袂れさや和かなる　素平

袖の雪　蝶ゆ掛うる茶摘　佑育

あさきて俤の若なつ　半二

故ふる峠　北風ふるはま　宗夕

さふれ貴　形のさやつかる梅　第辺

皆興

やとり歩き懐まとりかさうと　汾方亭　南尹

むえ咲く人の笑ひ共日よりも　高世

、

七世の書　清らかなる蔭の塔　仁　凡子

月見も別世界や　変　新友

蓮の里　別るるや　物の色　足子

ゐるまで古りゆく　世　恋　翠雲

春興

甚い年　雪きさえ　初春の礼　佛仙

むえ咲く　梅に紅　梅に紫よあり　舎素

脚らえも孫　孫ゆえ　物ずき　秋夕

物さくて　風い　踏ませる　雪　地下　八紀

寒々　坊い　世　紅き　紅　係らけ　二瓢

うえ　ゆえ　第　の　新い　考ふる　昏水

孫　ゐる　ゐい　懐かさ　柳　ゆる　知　紅

[illegible]の[illegible]ハ雪しむえの[illegible]　柳似

早春登楼　百川

酌盞新年酒
登楼花鳥春
書劍尚不就
簑笠一閑人

文通　春興

童蒙武林

[illegible]てさくら[illegible]のひろ[illegible]新[illegible]多　倚翠

[illegible]分[illegible]角[illegible]わ[illegible]の[illegible]馬来

[illegible]佛の教ハ下[illegible]多[illegible]四　北童

[illegible]山叩の名を
化[illegible]仏と
[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　半化坊

春興

ほろ〳〵と夢うつくしい柳哉　尼　素園

さくあの切り〳〵見れば柳かな　流花　一日明

、

谷の戸を緑うつくしき雨の朝　大寺寺　素堂

、

約束く彫吹春柳かな　素文

さの池の渭中ひろ〳〵と春雨　支田

山里や多の草枕春　耳谷

柳の名をはく祇て金ち紙ち　紫紙

ふれ〳〵ふ伝ひ柳哉　友巴

ひえ咲やうつろへ雪の綱　虎水

猫もあれ猫歩かうかとうかう　氏行

猫引をうつくしき春柳哉　大水

歩兵や名柳の名をつけくれ　里夕

うすイ云ふ山乃之　河さうう　之丸

雪景

[illegible]の雪
中[illegible]と[illegible]

四文

佳境ていれもとと梁のか　冨山　麻父

年内立春

[illegible]年春　知耕

[illegible]マと乃春　秀士

[illegible]の月　宇徐

[illegible]年　井柳史　正山

[illegible]

[illegible]刈　札刷　梅下

[illegible]巨燈孔　不仙

[illegible]小切[illegible]咏を仰も梅　第上

海棠雪も[illegible]年の雪　花々

[illegible]ぬ妙あちと仕已　砂一

乾鮭の法[illegible]　和夕

[illegible]て柳史　車ト

柘榴の実ぬしとつけまゐ　正以

嫁ぬりの妻よ　笑くやむらの花　宗翁

大尾

をのしし唐土社了
鹿茂盛こまの紫系
つきを及ぬの鈴を　捨雪
數雲のかけふみて乃
名詩をわすれむ

初終

豆ぬかや所とあるもうまそ　舎東

歌のうまそ

日暮も年ぬ仕切や　名信　校　年涼

長ぬ枕た祢

井一ふ新記をして　師も名　武士

武士のうまの

魚ふ子ふうまそ見長年仕色　芦子

悪ぬ終

ぬぬしのすそ海ふ好く巨燈ふ　半二

立身　種

[illegible]　素行

[illegible]　種

[illegible]　小西

仮[illegible]

[illegible]　琴瑟

而の[illegible]

人[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　江戸

上戸種

[illegible]　[illegible]種

[illegible]

[illegible]　風鞭

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　岩夕

高人雅

雅日の長かりしむえの夢　知耕

恍の多孫

未底のかしれ地帝々昆布賣　多々

余興

俳諧百韻之一頃

松の雪根に帰れば忘れ　秋彦

さく蹄尾琴素盃所　多々

一位ゆ長京材角ろく　年涼

保子長野京麻小屋所　素祢

蕎五人本ろ社辭ゑ　芋子

白鞍ろて屋人敷　小西

仏言と幸解往のすゑ　ちん　岩夕

宮で往ハ明の川　琴水

柳ゥの不幸好も哀　柳　石

皆百ひ出く仰りまる　宇織

ぬけ穴の袂ぬはめつく　仏不哀　金東

小懸と真く様と身ハ　ゑ耕

素敷のお　猫ひ水ぬく　第二

うつかい溶ハうぬ茶帝　弧一

喜ぬり表おひ金ハ　桜花　武士

陽ゑの白ぬ多ハ立月　凡鈴

守歳

ゆくとしや歯原や

くるとしや仏名

北海坊